



KO駒澤大学3×0国士舘大学

「ついに」とまる思い

試合後、「今日のテーマは粘り」と語る秋田監督の表情には、安堵感が漂っていた。2連勝で迎えた国士舘大戦。「今日は最初から全員気合いが入った」と山崎が語ったように、駒大イレブンが国士舘大を黙らすには十分なほどの気迫がピッチを包んでいた。結果を見れば3・0の圧勝。監督の意図した「粘り」を選手達は見事にやり遂げて見せた。これで2試合連続の完封勝利。

しかし、「いつもそうだが、前からのプレスがはまっていないし、DFラインが引きすぎてしまふ」と塚本。後半、塚本の言うようにDFラインが押し上げられず、中盤を支配される苦しい時間帯があったのは事実。勝ち続けなくてはいけない状況の中でも、修正点を確実に見極め、次を生かす。この連鎖こそがDFラインの好調を左右するのではないか。「危ない所はいっぱいあるけど、多少は安定してきたかな」と秋田監督。現状に満足はしていないものの、確かな手ごたえは感じているようだ。この手ごたえの裏にある、「3得点」という好材料も忘れてはいけ

ない。この日2得点の山崎は、「自分はただひたすら一生懸命やるだけです」という言葉を残した。「粘る」という泥臭いプレーを真骨頂とする彼らしい言葉だった。チームは一つのテーマを掲げ、確実に成長している。今節、わずかの出場となった小林についても「今週もう少しガンガンやれば先発でも良いかなと思ってます」と秋田監督が言うように、復活のきざしが見えてきた。

しかし、主将の八角は「ここで怖いのが慢心。緩む所は縮めてやっていきたいです」と気を引き締める。まだまだ負けられない戦いは続く。次節対戦する東海大は降格圏内にいるだけに、気持ちを中心に挑んでくるだろう。だが、小林の復活、チーム状態は上向きという明るい材料は選手のモチベーションを上げるには申し分ない。「ここで勝たないと上は見えてこないんで、勝たなければいけないと思います」(八角)。勝ち点3を取ることで自信になる。自信を確信へ変えるため、本当の正念場はこれからだ。(大畑 淳一)



「ヤマケン」 2ゴールの大活躍!!

- ① 自身2点目となるシュートを放つ
 - ② シュートの行方を見つめる
 - ③ ゴールが決まりガッツポーズ
 - ④ 高崎に祝福される
- ：いずれも山崎 (撮影・中野成博)